

2025年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
123140010	日本語リテラシーⅠ	大竹 志保美			1	選択	1前期
科目の概要							
大学生活に必要な日本語でのコミュニケーションの方法を学ぶ。自己紹介やメールの書き方などから、ミニレポートの作成までを修得する。ミニレポート作成のためには新書を読んで要約する方法として「あらまし読み」を体得する。本科目はDP2. 3. 6に関連している。							
学修内容				到達目標			
① 大学生活で想像される様々な場面での適切な日本語コミュニケーションの方法を理解する。 ② 新書の章程度の長さの論理的な文章の概要を理解する方法を学ぶ。 ③ 大学生活で必要となるレポートの書き方の基礎を学ぶ。				① 大学生活で想像される様々な場面で適切な日本語コミュニケーションができる。 ② 新書の章程度の長さの論理的な文章の概要を理解して要約できる。 ③ ②を引用して論理的な構成でミニレポートを書ける。			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例					
前に踏み出す力	主体性	到達目標に向けた課題を行うのに必要な知識について、教科書を参考に自己学修することができる。					
	働きかけ力						
	実行力	目標達成に向かって、最後まで課題を良いものにしようと追究することができる。					
考え抜く力	課題発見力	講義や文献、グループ活動等で得た情報を客観的に整理し、自分の課題を見出すことができる。					
	計画力						
	創造力	課題や問題を、様々な方向から柔軟に考え、自分なりの見解を持つことができる。					
チームで働く力	発信力	調べたり、考えたり、話し合ったりしたことを的確な表現で発表することができる。					
	傾聴力	他者の意見によく耳を傾けて、その上で自分の考えを構築することができる。					
	柔軟性						
	状況把握力						
	規律性	遅刻や欠席をせず、授業に集中することができる。また、提出物の期限を守ることができる。					
	ストレスコントロール力						
テキスト及び参考文献							
『大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング 初年次ゼミ対応テキストブック』宮武里衣 ナカニシヤ出版							
他科目との関連、資格との関連							
当科目はスキル・リテラシー教養科目に位置付けられ、「日本語リテラシーⅡ」へ継続する科目である。							
学修上の助言				受講生とのルール			
				遅刻3回で欠席1回と数える。 提出物の期限は厳守する。 授業中に指示のない場合にはスマホ・タブレットなどを使用せず、パソコンは授業に必要な場合での使用に限る。			

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
	平常評価	小テスト	40	①	✓			小テスト 40点（20点×2回） 講義内容を理解しており、活用が見込まれるかを評価する。 （獲得80%、活用20%）
				②				
				③				
		レポート	50	①				①「あらまし読みシート」20点（10点×2回） 本の内容を正しくまとめられているかを判断する。 （獲得50%、活用30%、解決20%） ②①を利用したミニレポート 30点。 本の内容を正しく理解して、その上で自分の考えを論理的にまとめることができているかを評価する。 （獲得20%、活用40%、解決40%）
				②	✓			
				③	✓			
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	0	①				
				②				
				③				
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			毎回の課題によって評価する。以下の観点による。 （主体性）到達目標に向けた課題を行うのに必要な知識について、自己学修することができる。 （実行力）目標達成に向けて、課題を最後までやり抜くことができる。 （課題発見力）講義や文献、グループ活動等で得た情報を客観的に整理し、課題を見出すことができる。 （創造力）授業内容を受け、自分なりの見解を持つことができる。 （発信力）調べたり、考えたり、話し合ったりしたことを的確な表現で発表することができる。 （傾聴力）他者の意見をよく聴き、自分の見解を持つことができる。 （規律性）授業に集中することができ、提出物の期限を守ることができる。 ・・・上記の能力要素のレベルに則り評価する。	
			②	✓				
			③	✓				
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
S(秀) Aの基準を十分満たしている上に、説得力をもって伝えることができる。 A(優) レポートや発表において、取り上げた資料から課題を正確に見出し、客観的な根拠を示しながら、筋道を立てて意見を示すことができる。併せて、授業態度において社会人基礎力のレベルが6割以上である。	B(良) レポートや発表において、取り上げた資料から課題を見つけ、根拠を明確にして、自分らしく意見を示すことができる。併せて、授業態度において社会人基礎力のレベルが4割以上である。 C(可) Bの基準を満たしていない。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1	・授業の進め方を理解する。 ・「自己紹介の仕方」簡単でも伝わる方法(教科書第1章)	講義 発表 ディスカッション	・授業の進め方を説明できる。 ・自己紹介を嫌がらずにできる。	(予習)『学泉ノート』を読んで、学修に向かう心構えを確認する。 (復習) 授業を振り返り、ポイントを整理する。	90	主体性 規律性
2	・「メールの書き方」スマートに依頼する(教科書第2章)	講義 発表 ディスカッション ※パソコンを必ず持参すること。google classroomを使用する。	・宛先と差出人、件名を正しく記入できる。	(予習) 教科書の該当部分を読んでおく。 (復習) 教科書の該当部分を読んで重要箇所にマーキングする。	90	主体性 働きかけ力
3	・「ノートの取り方」思考の筋道の記録(教科書第3章)	講義 発表 ディスカッション 講義 発表 ディスカッション	・講義の要点を記録できる。	(予習) 教科書の該当部分を読んでおく。 (復習) 教科書の該当部分を読んで重要箇所にマーキングする。	90	実行力 課題発見力
4	・「文の乱れへの対応」正解を知って正しく書く(教科書第16章) ・小テスト①	講義 発表 ディスカッション	・文中の係り受けを正しく理解している。	(予習) 教科書の該当部分を読んでおく。 (復習) 教科書の該当部分を読んで重要箇所にマーキングする。	90	主体性 発信力
5	・「説明の仕方」わかりやすく説明するコツ(教科書第4章)	講義 発表 ディスカッション	・説明のワークに楽しんで参加できる。	(予習) 教科書の該当部分を読んでおく。 (復習) 教科書の該当部分を読んで重要箇所にマーキングする。	90	実行力 傾聴力
6	・「論文・レポートの言葉」論文になじむ言葉となじまない言葉(教科書第15章) ・小テスト②	講義 発表 ディスカッション	・文末表現のパターンを複数個理解している。	(予習) 教科書の該当部分を読んでおく。 (復習) 教科書の該当部分を読んで重要箇所にマーキングする。	90	課題発見力 傾聴力
7	・「意見文の読み方」事実と意見の違いに気付く(補助資料)	講義 発表 ディスカッション	・新聞記事から課題を見つけることができる。	(予習) 補助資料の該当部分を読んでおく。 (復習) 補助資料を読んで重要箇所にマーキングする。	90	課題発見力 創造力
8	・「問いの立て方」自分の興味関心に向き合う方法(教科書第9章)	講義 発表 ディスカッション	・自分の興味を明らかにできている。	(予習) 教科書の該当部分を読んでおく。 (復習) 教科書の該当部分を読んで重要箇所にマーキングする。	90	状況把握力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
9	・「要約の仕方」文献引用の正しい方法を理解する(教科書第13章)	講義 発表 ディスカッション	・要点を正しく抜き出している。	(予習)教科書の該当部分を読んでおく。 (復習)教科書の該当部分を読んで重要箇所にマーキングする。	90	課題発見力 状況把握力
10	・「情報読書の仕方①」あらまし読みで読んでみる(教科書第10章)	講義 発表 ディスカッション	・あらまし読みに参加している。	(予習)新書を1冊借りておく。 (復習)教科書の該当部分を読んで重要箇所にマーキングする。	90	課題発見力 創造力
11	・「情報読書の仕方②」あらまし読みで読んでみる(教科書第10章)	講義 発表 ディスカッション	・あらまし読みシートのマップが完成している。	(予習)教科書の該当部分を読んでおく。 (復習)教科書の該当部分を読んで重要箇所にマーキングする。	90	主体性 発信力
12	・「情報読書の仕方③」あらまし読みで読んでみる(教科書第10章)	講義 発表 ディスカッション	・あらまし読みシートのマップが完成している。	(予習)教科書の該当部分を読んでおく。 (復習)教科書の該当部分を読んで重要箇所にマーキングする。	90	課題発見力 発信力 傾聴力
13	・「情報読書の仕方④」あらまし読みを完成する(教科書第10章) ・本のテーマについての事実と作者の意見をまとめる。 ・グループで情報共有する。	講義 発表 ディスカッション	・本の内容を人に伝えられる。	(予習)本を読み直しておく。 (復習)本を読み直しておく。	90	発信力 状況把握力
14	・「構成の仕方とパラグラフライティングの基礎」 パラグラフライティングの方法を学ぶ(教科書第12章)	講義 発表 ディスカッション	・制限時間内に、筋道を立て考えられる。	(予習)教科書の該当部分を読んでおく。 (復習)教科書の該当部分を読んで重要箇所にマーキングする。	90	発信力 規律性
	・「レポート作成」手順に従ってレポートを書く	オンデマンド google classroomを使用する。	・本論がある。	(予習)今までの教科書の内容で必要なところを読んでおく。 (復習)教科書の該当部分を読んで重要箇所にマーキングする。	90	課題発見力 発信力 傾聴力 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2025年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
123140020	日本語リテラシーⅡ	大竹 志保美			1	選択	1後期

科目の概要

卒業論文を執筆するにあたって目に触れる文献を細部まで正確に読む力を育成する。教材は、新聞記事、社説、教科書、資格試験の問題文、論文である。それぞれで①文の構造、②非連続テキスト、③指示語、④定義、⑤意見と事実の区別などの内容を理解する。身に付けた力はミニレポートを作成することでアウトプットする。この科目はDP2.3.6と関連している。

学修内容	到達目標
① 大学生活で目に触れる文献の細部を読む力を身に付ける。 ② 新聞記事を教材に事実を正確に理解する方法を学ぶ。 ③ 新聞社説を教材に事実と意見を区別する方法を学ぶ。 ④ 教科書の文章を教材に文の構造を理解する方法を学ぶ。 ⑤ 資格試験の問題文を教材に非連続テキストの読み取りをする方法を学ぶ。 ⑥ 資格試験の問題文を教材に定義の理解の方法を学ぶ。 ⑦ ①から⑦で身に付いた力を用いてミニレポートを作成する。	① 大学生活で目に触れる文献の細部を読む力を身に付ける。 ② 新聞記事を教材に事実を正確に理解する方法を修得する。 ③ 新聞社説を教材に事実と意見を区別する方法を修得する。 ④ 教科書の文章を教材に文の構造を理解する方法を修得する。 ⑤ 資格試験の問題文を教材に非連続テキストの読み取りをする方法を修得する。 ⑥ 資格試験の問題文を教材に定義の理解の方法を修得する。 ⑦ ①から⑦で身に付いた力を用いてミニレポートを作成できる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素

学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例

前に踏み出す力	主体性	到達目標に向けた課題を行うのに必要な知識について、教科書を参考に自己学修することができる。
	働きかけ力	
	実行力	目標達成に向かって、最後まで課題を良いものにしようと追究することができる。
考え抜く力	課題発見力	講義や文献、グループ活動等で得た情報を客観的に整理し、自分の課題を見出すことができる。
	計画力	
	創造力	課題や問題を、様々な方向から柔軟に考え、自分なりの見解を持つことができる。
チームで働く力	発信力	調べたり、考えたり、話し合ったりしたことを的確な表現で発表することができる。
	傾聴力	講義を理解し、他者の意見によく耳を傾けてそのうえで自分の考えを構築することができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	遅刻や欠席をせず、授業に集中することができる。また、提出物の期限を守ることができる。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

『大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング 初年次ゼミ対応テキストブック』宮武里衣 ナカニシヤ出版
 補助資料は授業回ごとに配付する。

他科目との関連、資格との関連

当科目はスキル・リテラシー科目に位置付けられ、「日本語リテラシーⅠ」から継続された科目である。

学修上の助言	受講生とのルール
いつも日本語の使い手として言葉に神経をとがらせてほしいです。周囲にあふれている日本語の正しい使い方を身に付けることが、論理的に物事を考えたり、人との言語コミュニケーションを豊かにしたりすることにつながります。どんな媒体でも良いですから、文や文章をたくさん読みましょう。	遅刻3回で欠席1回と数える。提出物の期限は厳守する。授業中に指示のない場合にはスマホ・タブレットなどを使用せず、パソコンは授業に必要な場合での使用とする。演習の回は前週に提示された宿題を用いた授業内容となるため、宿題は忘れないで取り組む。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①		⑥		
				②		⑦		
				③				
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト	40	①	✓	⑥		小テスト 40点。20点×2回。講義内容を理解しており、活用が見込まれるかを評価する。 (獲得80%、活用20%)
				②		⑦		
				③				
				④				
				⑤				
		レポート	50	①		⑥		ミニレポート 40点。文献の内容を正しく理解して、その上で自分の考えを論理的にまとめることができるかを評価する。 (獲得20%、活用40%、解決40%)
				②	✓	⑦		
				③	✓			
				④				
				⑤				
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	0	①		⑥		
				②		⑦		
				③				
				④				
				⑤				
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	⑥		毎回の課題で評価する。 （主体性）到達目標に向けた課題を行うのに必要な知識について、自己学修することができる。 （実行力）目標達成に向けて、課題を最後までやり抜くことができる。 （課題発見力）講義や文献、グループ活動等で得た情報を客観的に整理し、課題を見出すことができる。 （創造力）授業内容を受け、自分なりの見解を持つことができる。 （発信力）調べたり、考えたり、話し合ったりしたことを的確な表現で発表することができる。 （傾聴力）講義や他者の意見をよく聴き、自分の見解を持つことができる。 （規律性）授業に集中することができ、提出物の期限を守ることができる。 ・・・上記の能力要素のレベルに則り評価する。	
			②	✓	⑦			
			③	✓				
			④					
			⑤					
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
S（秀）Aの基準を十分満たしている上に、説得力をもって伝えることができる。 A（優）レポートや発表において、取り上げた資料から課題を正確に見出し、客観的な根拠を示しながら、筋道を立てて意見を示すことができる。併せて、授業態度において社会人基礎力のレベルが6割以上認められる。	B（良）レポートや発表において、取り上げた資料から課題を見つけ、根拠を明確にして、自分らしく意見を示すことができる。併せて、授業態度において社会人基礎力のレベルが4割以上認められる。 C（可）B基準を満たしていない。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1	・授業の進め方理解する。 ・文の構造を理解する。 ・「教科書」の文章を使用する。 ・講義	講義 発表 ディスカッション	・授業の進め方を説明できる。 ・主語と述語がわかる。	(予習) 学泉ノートを読んで、学修に向かう心構えを確認する。 (復習) 宿題を行う。	90	主体性 規律性
2	・文の構造を理解する。 ・「教科書」の文章を使用する。演習。	講義 発表 ディスカッション	・主語と述語、目的語がわかる。	(予習) 次回のプリントに目を通す。 (復習) 宿題を完成させる。	90	主体性 働きかけ力
3	・事実と意見を区別する。 ・「社説」を使用する。 ・講義	講義 発表 ディスカッション	・事実の部分が判別できる。	(予習) 次回のプリントに目を通す。 (復習) 宿題を完成させる。	100	実行力 課題発見力
4	・事実と意見を区別する。 ・「社説」を使用する。 ・演習	講義 発表 ディスカッション	・事実と意見の区別ができる。	(予習) 次回のプリントに目を通す。 (復習) 宿題を完成させる。	100	主体性 発信力
5	・指示語を理解する。 ・「新聞記事」を使用する。 ・講義	講義 発表 ディスカッション	・新聞記事を読もうとする。	(予習) 次回のプリントに目を通す。 (復習) 宿題を完成させる。	100	実行力 傾聴力
6	・指示語を理解する。 ・「新聞記事」を使用する。 ・演習	講義 発表 ディスカッション	・指示語の指している部分がおおよそ理解できる。	(予習) 次回のプリントに目を通す。 (復習) 宿題を完成させる。	100	課題発見力 傾聴力
7	・定義を理解する。 ・「資格試験の問題文」を使用する。 ・講義	講義 発表 ディスカッション	・資格試験の問題文を最後まで読める。	(予習) 次回のプリントに目を通す。 (復習) 宿題を完成させる。	100	課題発見力 創造力
8	・定義を理解する。 ・「資格試験の問題文」を使用する。 ・演習	講義 発表 ディスカッション	・定義の部分がどこかが判別できる。	(予習) 次回のプリントに目を通す。 (復習) 宿題を完成させる。	100	状況把握力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
9	・非連続テキストを読む。 ・「資格試験の問題文」を使用する。講義。	講義 発表 ディスカッション	・グラフを正しく理解する。	(予習) 次回のプリントに目を通す。 (復習) 宿題を完成させる。	120	課題発見力 状況把握力
10	・非連続テキストを読む。 ・「資格試験の問題文」を使用する。演習。	講義 発表 ディスカッション	・表を読むことができる。	(予習) 次回のプリントに目を通す。 (復習) 宿題を完成させる。	120	課題発見力 創造力
11	・理系定義を理解する。 ・「論文」を使用する。 ・講義	講義 発表 ディスカッション	・論文の定義部分を判別できる。	(予習) 論文を探して読んでおく。 (復習) 宿題を完成させる。	60	主体性 発信力
12	・理系定義を理解する。 ・「持参の論文」を使用する。 ・演習	講義 発表 ディスカッション	・定義を正確に理解できる。	(予習) 論文を探して読んでおく。 (復習) 宿題を完成させる。	60	課題発見力 発信力 傾聴力
13	・「ミニレポート」を作成する①	講義 発表 ディスカッション	・制限時間内に、筋道を立て考えられる。	(予習) レポートの構想を立てる。 (復習) 宿題を完成させる。	60	発信力 状況把握力
14	・「ミニレポート」を作成する②	講義 発表 ディスカッション	・本論がある。	(予習) レポートの本論を構想する。 (復習) レポートを完成させる。	60	発信力 規律性
15	・「セルフチェック」を実施する。	オンデマンド	・チェックシートの項目が埋まっている。	(予習) 自分の方法でセルフチェックする。 (復習) ミニレポートを完成させる。	60	課題発見力 発信力 傾聴力 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力